



# 対がん協会報

1部70円(税抜き)

第665号

2018年(平成30年)  
8月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です  
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-12 G-7ビルディング9階  
☎ 03-3541-4771 FAX 03-3541-4783 <https://www.jcancer.jp/>

主な内容	2面	がん検診受診者拡大を考える研修会を開催
	3面	改正健康増進法成立
	4面	「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」終了
	8面	リリー・オンコロジー・オン・キャンパス

## 第51回がん征圧全国大会 9月14日に千葉市で開催 「千葉から全国へ みんなで広げる がん征圧の輪」

### 主なプログラム

#### 【全国大会前日行事】

9月13日(木) 幕張メッセ国際会議場

#### ■実務者研修会 10:50~13:30

テーマ1:「HPVワクチンをめぐる最近の話題」

講師:今野良・自治医科大学さいたま医療センター教授

テーマ2:「高齢者のがん検診の実態調査に関する報告と意見交換」

報告者:小西宏・日本対がん協会検診研究グループマネージャー

テーマ3:「大腸がん検診~検診の意義をもう一度考えよう」

講師:松田一夫・福井県健康管理協会副理事長

#### ■支部長会議 14:00~15:00

朝日がん大賞受賞者の講演ほか

#### ■シンポジウム 15:30~17:30

テーマ:「受診者の減少を食い止める」

シンポジスト:佐々木昌弘・厚生労働省がん・疾病対策課長ほか

#### 【がん征圧全国大会】

9月14日(金)10:00~12:15 幕張メッセ国際会議場

#### ■表彰 朝日がん大賞、日本対がん協会賞(個人・団体)、

永年勤続表彰、がん征圧スローガン入選者

#### ■記念講演 アグネス・チャンさん(歌手/日本対がん協会 ほほえみ大使)

#### ■次期開催県挨拶 公益財団法人愛媛県総合保健協会

#### ■主催 公益財団法人日本対がん協会、 公益財団法人ちば県民保健予防財団

#### ■特別後援 朝日新聞社

#### ■後援 厚生労働省、文部科学省、日本医師会、千葉県、千葉市、千葉県医師会、千葉県歯科医師会、千葉県薬剤師会、千葉県看護協会、千葉県栄養士会、千葉日报社

日本対がん協会とちば県民保健予防財団(日本対がん協会千葉県支部)は、がん征圧月間の9月14日に千葉市で「がん征圧全国大会」を開催する。千葉市での開催は37年ぶり2回目。

今年の大会テーマは「千葉から全国へ みんなで広げる がん征圧の輪」。

本大会前日の実務者研修会では、「HPVワクチンをめぐる最近の話題」と題して今野良・自治医科大学さいたま医療センター教授が、「大腸がん検診~検診の意義をもう一度考えよう」と題して松田一夫・福井県健康管理協会副理事長がそれぞれ講演。さらに小西宏・日本対がん協会検診研究グループマネージャーが、高齢者のがん検診の実態調査に関して報告する。

また、シンポジウムでは「受診者の減少を食い止める」をテーマに議論を交わす。シンポジストは佐々木昌弘・厚生労働省がん・疾病対策課長、福吉潤・キャンサーズキャン社長ほか。

全国大会当日は日本対がん協会のほほえみ大使で歌手のアグネス・チャンさんが記念講演を行うほか、朝日がん大賞や日本対がん協会賞に選ばれた個人、団体の表彰、日本対がん協会グループ支部・提携団体の永年勤続者、がん征圧スローガンの入選者、日本対がん協会創立60周年記念功労者を表彰する。

### がん相談ホットライン 祝日・年末年始を除く毎日

03-3541-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3541-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

### 医師による面接・電話相談(要予約)

### 社労士による就労相談(要予約)

予約専用 03-3541-7835

日本対がん協会は医師による面接・電話相談と社労士による就労の電話相談(ともに無料、電話代は別)を受け付けています。予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までです。

医師による相談は電話が1人20分、面接は30分、社労士による電話相談は40分になります。詳しくはホームページ(<https://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

# がん検診受診者拡大を考える研修会を開催

## 効果的な受診勧奨の事例を学び、生かす



報告する北海道支部の周東係長

日本対がん協会は7月18日、東京都千代田区の有楽町朝日スクエアで「がん検診受診者拡大研修会」を開催し、全国の25支部の職員35人が参加した。特定健診・がん検診の受診率向上に特化した民間のシンクタンク会社「キャンサーズキャン」と業務提携して受診勧奨の事業を始めた愛媛県総合保健協会（愛媛県支部）と北海道対がん協会（北海道支部）の取り組みの事例報告や、「受診者拡大に向けて何ができるのか」をテーマに参加者によるグループディスカッションが行われた。参加者らは福吉潤・キャンサーズキャン社長から各地で展開した受診率向上の取り組みの成功事例についての解説も受けながら、受診者拡大への対応について学んだ。

研修会は昨年到现在2回目。昨年の研修会で、福岡県支部がキャンサーズキャン社と提携して受診勧奨事業を進めていることが報告され、その後各支部からキャンサーズキャンへの問い合わせが相次いだ。この日は昨年の研修会をきっかけに、キャンサーズキャンと提携して事業を始めた愛媛県総合保健協会の安川恭平・経営企画課主任が報告。愛媛県支部が窓口になって、受診勧奨を効率的に進め、検診の日程やスタッフの確保の体制を整えるなどの受診勧奨事業サービスをキャンサーズキャンと共同で自治体に提供する提案を愛媛県内20市町にしたところ、

13市町と契約に至った経緯を説明した。

また、北海道対がん協会の周東百合子・管理係長は、日本ATMヒューマンソリューション社とも提携して、江別市にコールセンターで検診の予約情報が一元管理できる個別受診勧奨システムを導入し、受診者数が前年より約1.4倍になった経緯を報告した。

これを受けて、キャンサーズキャンの出町慎一・執行役員は昨年の研修会以降、各支部との連携が飛躍的に増え、現在12の支部で共同事業や事業連携が進み、5支部で提案や研修会が進んでいることを説明した。

### 心理面を考え受診勧奨

その後、参加者らによるディスカッションが行われ、福吉社長がそのディスカッションを踏まえ、心理学的や行動科学の観点からの受診拡大のアプローチを解説した。

ディスカッションではまず、「そもそも検診を受けることはどの程度面倒くさいことなのか」ということをテーマに意見を出し合った。参加者からは、「自分の健康度と時間を比較して面倒に思われている」などの意見が出たが、福吉社長は、検診を受けるまでの面倒くささが自治体によって異なっていることを指摘。細かすぎる検診の受診案内を簡単な記述にすることで7.7%だった受診率が19.1%に伸びた事例を紹介し、面倒くささを取り除くことの効果を強調した。

さらに検診を受けると得するように勧奨する場合と、検診を受けないと損するように

勧奨した場合、どちらが検診受診勧奨を促すかについても解説した。「今年度、大腸がん検診を受診された方には来年度 大腸がんキットを自宅に送る」と勧奨した場合と、「今年度、大腸がん検診を受診されないと、来年度大腸がんキットを自宅に送ることができません」と勧奨した場合では、前者の受診率が18.3%に対し、後者は25.4%だった例を紹介した。

人は得することより、損をすることを重視する傾向にあることを示し、そうした心理面を受診勧奨に生かすことをアドバイスした。

### 自己採取HPV検査使い受診勧奨

一方、日本対がん協会の小西宏・がん検診研究グループマネージャーは、子宮頸がん検診の未受診者への受診勧奨のツールとして、自分で検体採取できる自己採取HPV検査を使い、この検査で陽性になった人を子宮頸がん検診の細胞診の受診を勧奨するモデル事業を鹿児島県の奄美・喜界島の5町村で実施していることを報告した。過去3年で子宮頸がん検診を受けたことがなかった792人中、118人が検査を希望し、検体を返送してきたのは81人だったが、この中から14人がHPV陽性となり、うち8人が住民検診での細胞診を初めて受けるようになったことを報告した。

研修会では最後に参加者らが「受診者拡大に何ができるのか」を議論した内容を報告。「各市町の検診担当者がもと積極的になるツールの開発が必要」などの意見が出されていた。



グループワーク形式で議論された





# 「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」がゴール

## 垣添忠生・日本対がん協会会長 3500キロ、32病院で様々な声に耳を傾ける

7月23日、垣添忠生・日本対がん協会会長の「全国縦断 がんサバイバー支援ウォーク」が、札幌市の北海道がんセンター訪問でゴールした。

ウォークは、垣添会長が全国がんセンター協議会加盟の32病院をできる限り歩いて訪れて、サバイバーや医療者らとの交流会を持ち、彼らの声に耳を傾けるという企画だ。

2月5日の福岡市の九州がんセンター訪問を皮切りに、9回に分けて行われた。総移動距離は約3500キロ、歩行距離も2500キロ近くに上る。

### 訴えたポイントは3つ

たとえば第1回では、福岡県から佐賀県まで行き、九州を横断して大分県へ。フェリーで愛媛県に渡り、サイクリストを横目に瀬戸内しまなみ海道を歩いて広島県に入り、山口県防府市の山口県立総合医療センターまで。九州で大雪に見舞われたりしながら、16日間で6病院を訪れた。

道中は、シンボルカラーに決めた緑色のジャンパーを着て、サバイバー支援を訴える緑色の幟を持って歩いた。病院が近づくと、日本対がん協会の支部の職員やリレー・フォー・ライフ・ジャパンの実行委員らが同行してくれたが、それ以外は、原則として1人。首都圏では、泌尿器科医の垣添会長が尿閉になるというピンチもあった。

垣添会長は、2007年に肺がんの妻を自宅で看取った経験から、在宅死を望んでいる。体力維持のため、毎朝、腹筋500回、背筋、スクワット、腕立て伏せを100回ほどやっている。

それでも、4月に77歳を迎えた垣添会長にとって、ウォークは大きな冒険だ。対がん協会内でも心配された。

各地で訴えたポイントは3つある。



96日間のウォークを終えて北海道がんセンターへゴール(7月23日)

①告知され、孤独や苦しみを抱えるがんサバイバーや家族を支えたい。そのために昨年6月、「がんサバイバー・クラブ」を立ち上げた。寄付で成り立つこの活動の認知を高めたい。

②がんに対する社会の意識を変えたい。5年生存率が60%を超えて、「がん=死」ではなくなった。社会復帰した人も多い。意識が変われば、就労や差別などの問題も消えていくだろう。

③2人に1人が生涯にがんになる時代。予防(禁煙、受動喫煙防止)と早期発見(検診)の大切さを伝えたい。

### 1人から始め、声を上げ続ける

各地の交流会では、サバイバーの方たちの声に耳を傾けた。

「金の切れ目が治療の切れ目」

「仕事と治療をどう両立させるか」

「希少がんで、同じ境遇の人に会えない」

「聴覚障害者は、健常者と比べて説明を受けるのが難しい」

「田舎は医師不足でセカンドオピニオンを受けることもままならない」

置かれている状況によって、悩みはさまざま。即答できない事柄も、ハッと気づかされた話もあった。

中には、「病院外で患者支援をするカフェを開きたい」

「AYA世代(10代半ば～30代)のケアをもっと充実させてほしい」などと希望や要望を述べる方もいた。こうした声には、「1人から始め、声を上げ続けることです。それによって、周囲に人が集まり、社会や政治を変えられます」と答えた。

「夫に手術を受けさせたことの罪悪感がぬぐえない」という悩みも聞いた。

垣添会長も、妻を亡くして酒を浴びるように飲ん

だ。そこから立ち直った経験を踏まえて、「お気持ちはよくわかります。しかし、自分を責めることはありません」と答えた。グリーンケア(近い人を亡くした人が悲しみから立ち直れるように寄り添うこと)は、医療からこぼれてしまう。垣添会長の大きなテーマでもある。

北海道がんセンターでは、北海道支部(公益財団法人北海道対がん協会)の方たちから、マラソンの優勝者がかぶる月桂樹の冠をプレゼントされた。胃がんのサバイバーでもある高橋はるみ道知事も出迎えて、「がんを予防し、がん医療の充実を図り、がんと共に生きる。このことを垣添会長は自らのパワーで訴えてこられました」と挨拶した。

北海道がんセンターの加藤秀則院長は「ウォークは終わっても、がんサバイバー支援は終わりません」と述べた。それは、垣添会長の思いでもある。

(日本対がん協会事務局次長 中村智志)



雪の中を黙々と歩く(2月6日)



# がんサバイバーカフェ 働く相談窓口をテーマに開催

日本対がん協会のがんサバイバー・クラブは7月20日、東京都中央区銀座の日本対がん協会で、「がんと共に生きるための『働く相談窓口』知ろう」をテーマに、患者交流イベント「がんサバイバーカフェ」を開いた。

仕事をしていてがんになったとき、どこにどんな相談をしたらよいかなど、がんと向き合いながら働くための知恵を学んでもらうのが狙いで、患者ら13人が参加。日本対がん協会などでがんの就労相談を行っている社会保険労務士の近藤明美さんと、患者向けの就労支援の無料電話相談を行っている日本キャリア開発協会のキャリアコンサルタント、砂川未夏さんをパネリストに招き、横山光恒・日本対がん協会がんサバイバー・クラブマネージャーの司会で、就労相談の使い方などが議論された。

この日はまず、横山マネージャーが、13年前に自分ががんとわかったときに当時勤めていた会社を14カ月休職した後に副作用が出てあっさりと、解雇され、どこにも相談もできずつらかった思いを語った。「今は相談できる窓



なごやかな感じで議論が進んだ

口ができてきたが、何を相談したらよいかのわからないこともある」として、近藤さんと砂川さんと呼んだ意図を紹介。相談者として、社会保険労務士とキャリアコンサルタントの違いを2人に聞いた。これに対して、近藤さんは、両方とも働く事への支援では同じだが、社会保険労務士は、問題の解決に法律や制度を手段として活用していることを紹介。砂川さんは、キャリアコンサルタントは、相談者がどこまでなら、どうしたらできるのかなど、心理的な支援をしていると答えた。

また、相談の時期としては、仕事を辞めてしまったからでは戻れなくなるため、2人とも仕事をやめる前にまず相談にくることを強調した。その上で、近藤さんは、仕事を辞めないと言

通りの生活が難しいときなど、仕事を辞めるのも選択肢の一つで、制度などを一緒に考えながら、辞めるならうまく辞めることの相談を勧めた。

さらに「キャリアコンサルタントにはどのような相談の仕方をするといいいのか」と問われた砂川さんは、「相談前に、契約を更新しないなど、仕事に対する自分の意志を整理してから相談してほしい」とアドバイスした。

最後に、2人がそれぞれが携わっている電話無料相談として、近藤さんからは日本対がん協会の就労相談以外に、一般社団法人CSRプロジェクトの「就労ほっとコール」(<https://workingsurvivors.org/secondopinion.html>)が、砂川さんからは「両立支援キャリアコンサルティング 30分無料電話相談」(<https://www.j-cda.jp/hatarakikata/>)がそれぞれ紹介された。砂川さんは都道府県の労働局でも、治療と仕事の両立支援の無料相談窓口が広がっているとして、在住の労働局を調べることを勧めた。

## ピンクリボンフェスティバル2018開催予定

今年も乳がん月間の10月を中心にピンクリボンフェスティバル(日本対がん協会、朝日新聞社ほか主催)を開催します。スマイルウオークを東京、

神戸で、シンポジウムとピンクリボンセミナーをそれぞれ東京で実施する予定です。シンポジウム当日は、シンポジウム関連イベントとして、患者

会や支援団体などのブースを出展する「なかまcafé」も開催されます。

スマイルウオークでは各会場で乳がん専門医とゲストによるトークショーで効果的な啓発を行います。ピンクリボンセミナーは乳がん検診対象前の20代から30代の女性に乳がんの正しい知識や体のケアを学んでもらうものです。

また、今年で14回目を迎えるピンクリボンデザイン大賞は、10月1日に最終審査結果を公表します。各イベントの詳細はピンクリボンフェスティバル公式サイト(<http://www.pinkribbonfestival.jp>)をご覧ください。

エリア	開催日	イベント(会場)	ゲスト	専門医
東京	10月13日(土)	スマイルウオーク東京 (六本木ヒルズアリーナ)	篠原ともえ	明石定子 (昭和大准教授)
	9月30日(日)	シンポジウム (有楽町朝日ホール)	麻倉未稀	中村清吾(昭和大准教授) ほか
	9月30日(日)	なかまcafé (有楽町朝日スクエア)		
	9月15日(土)	ピンクリボンセミナー (JR新宿ミライタワー)	AYA	山内英子 (聖路加国際病院副院長)
神戸	10月8日(月・祝)	スマイルウオーク神戸 (スペースシアター)	クワパタオハラ	玉木康博 (大阪国際がんセンター副院長)

## 2016年度グループ支部 がん検診の実施状況から

## ■全体

支部名	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果								
				がん(D)	がん疑い	CIN I (軽度)	CIN II (中等度)	CIN III			CIN I~IIIの 区分不明	AIS等
								高度	上皮内がん	詳細不明		
北海道	65,704	632	589	13	178	7	15	58	40	0	0	3
青森	39,575	755	658	9	0	187	81	40	27	0	0	0
岩手	45,748	783	688	7	0	112	46	30	22	2	3	1
宮城	112,138	1,147	1,095	6	1	407	193	59	37	0	0	6
秋田	20,836	175	159	4	0	47	30	19	5	0	0	0
山形	38,318	282	227	1	0	75	25	0	23	0	0	0
福島	73,017	835	771	10	2	175	133	0	0	86	0	4
茨城	95,675	1,802	1,512	15	0	423	141	60	17	20	3	4
栃木	40,325	971	865	6	0	364	108	59	6	0	0	1
群馬	31,414	337	311	4	0	100	27	17	7	5	0	2
埼玉	12,224	95	70	2	0	25	11	11	3	0	0	0
千葉	92,278	1,239	1,080	12	0	361	95	65	13	0	14	6
新潟	52,232	1,050	885	6	3	225	91	49	15	0	0	3
山梨	137	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	16,902	178	148	1	0	49	14	11	1	0	2	0
富山	51,154	453	416	6	34	130	43	55	20	0	0	2
石川	17,095	202	174	1	0	80	18	11	12	0	0	0
福井	33,078	516	439	6	0	134	77	61	0	0	0	1
愛知	11,310	181	158	0	0	36	23	2	4	0	0	0
三重	18,160	212	171	0	0	48	14	18	5	0	5	0
滋賀	6,249	17	17	1	5	1	0	5	0	0	0	1
京都	18,397	311	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	22,245	570	465	2	0	79	30	35	4	0	0	0
奈良	1,977	33	21	0	0	5	1	2	3	0	0	2
和歌山	1,616	7	5	0	0	0	1	1	0	0	0	0
鳥取	13,432	44	31	1	0	10	1	3	0	0	0	0
島根	8,558	161	121	0	0	24	14	6	4	0	0	0
岡山	26,893	162	119	0	0	44	4	17	3	0	3	0
広島	13,915	191	168	3	0	37	24	13	3	0	0	0
山口	6,502	217	45	0	1	9	2	1	1	0	0	0
徳島	5,262	42	27	0	0	11	3	0	0	2	0	0
香川	12,514	139	97	1	0	43	16	12	8	0	0	0
愛媛	27,685	260	223	8	0	74	25	31	0	0	0	2
高知	22,968	230	157	6	0	34	22	27	12	0	0	2
福岡	51,162	793	634	11	1	184	87	45	13	5	2	1
佐賀	26,314	677	557	12	77	231	66	43	17	0	0	0
長崎	17,057	175	163	0	14	46	18	12	3	5	0	1
熊本	32,387	1,090	900	5	0	121	46	55	24	0	0	2
大分	20,895	338	304	3	0	86	27	24	9	8	0	0
宮崎	13,107	273	232	1	0	54	10	22	2	0	0	0
鹿児島	60,773	425	388	2	53	100	57	33	2	0	0	2
沖縄	14,051	134	109	1	0	36	16	12	2	0	0	0
合計	1,291,279	18,134	15,199	166	369	4,214	1,655	1,024	367	133	32	46

## ◇子宮頸がん

精検の結果				精検不要の人数 (E)	精検受診の有無を 把握していない人数 (F)	精検の結果を把握 している人数 (G)	要精検率 (B/A)	精検受診率 (C/B)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中度 (D/B)	支部名
子宮頸がん 以外のがん	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果								
0	268	7	0	65,072	43	589	0.96%	93.20%	0.02%	2.06%	北海道
1	0	242	71	38,820	97	587	1.91%	87.15%	0.02%	1.19%	青森
3	364	98	0	44,965	95	688	1.71%	87.87%	0.02%	0.89%	岩手
4	39	343	0	110,991	52	1,095	1.02%	95.47%	0.01%	0.52%	宮城
1	30	23	0	20,661	16	159	0.84%	90.86%	0.02%	2.29%	秋田
0	36	67	0	38,036	55	227	0.74%	80.50%	0.00%	0.35%	山形
9	1	84	0	72,182	64	504	1.14%	92.34%	0.01%	1.20%	福島
7	253	411	158	93,873	290	1,354	1.88%	83.91%	0.02%	0.83%	茨城
4	20	282	0	39,354	106	850	2.41%	89.08%	0.01%	0.62%	栃木
3	65	81	0	31,077	26	311	1.07%	92.28%	0.01%	1.19%	群馬
1	3	12	2	12,129	25	68	0.78%	73.68%	0.02%	2.11%	埼玉
2	184	328	0	91,039	159	1,080	1.34%	87.17%	0.01%	0.97%	千葉
8	1	273	112	51,182	165	674	2.01%	84.29%	0.01%	0.57%	新潟
-	-	-	-	137	-	-	0.00%	-	-	-	山梨
0	25	21	24	16,724	30	124	1.05%	83.15%	0.01%	0.56%	長野
2	36	90	0	50,701	37	418	0.89%	91.83%	0.01%	1.32%	富山
1	21	30	0	16,893	28	174	1.18%	86.14%	0.01%	0.50%	石川
0	96	64	0	32,562	77	439	1.56%	85.08%	0.02%	1.16%	福井
0	5	75	13	11,129	23	145	1.60%	87.29%	0.00%	0.00%	愛知
0	0	49	32	17,948	41	139	1.17%	80.66%	0.00%	0.00%	三重
0	0	4	0	6,232	0	17	0.27%	100.00%	0.02%	5.88%	滋賀
-	-	-	-	18,086	311	0	1.69%	-	-	-	京都
2	97	183	0	21,675	105	432	2.56%	81.58%	0.01%	0.35%	兵庫
0	0	4	1	1,944	12	17	1.67%	63.64%	0.00%	0.00%	奈良
0	0	3	0	1,609	2	5	0.43%	71.43%	0.00%	0.00%	和歌山
0	0	15	1	13,388	13	30	0.33%	70.45%	0.01%	2.27%	鳥取
0	0	15	1	8,397	40	63	1.88%	75.16%	0.00%	0.00%	島根
1	19	28	0	26,731	43	119	0.60%	73.46%	0.00%	0.00%	岡山
1	14	65	8	13,724	23	168	1.37%	87.96%	0.02%	1.57%	広島
0	25	6	0	6,285	172	45	3.34%	20.74%	0.00%	0.00%	山口
0	0	2	9	5,220	15	18	0.80%	64.29%	0.00%	0.00%	徳島
0	10	7	0	12,375	42	97	1.11%	69.78%	0.01%	0.72%	香川
2	38	42	1	27,425	37	222	0.94%	85.77%	0.03%	3.08%	愛媛
26	2	0	0	22,738	73	131	1.00%	68.26%	0.03%	2.61%	高知
1	140	144	0	50,369	159	634	1.55%	79.95%	0.02%	1.39%	福岡
4	0	89	0	25,637	120	539	2.57%	82.27%	0.05%	1.77%	佐賀
4	12	48	0	16,882	12	163	1.03%	93.14%	0.00%	0.00%	長崎
2	313	332	0	31,297	190	900	3.37%	82.57%	0.02%	0.46%	熊本
2	65	80	0	20,557	34	304	1.62%	89.94%	0.01%	0.89%	大分
1	47	94	0	12,834	41	231	2.08%	84.98%	0.01%	0.37%	宮崎
0	5	133	1	60,348	37	387	0.70%	91.29%	0.00%	0.47%	鹿児島
0	6	18	19	13,917	25	91	0.95%	81.34%	0.01%	0.75%	沖縄
92	2240	3892	453	1,273,145	2,935	14,238	1.40%	83.81%	0.01%	0.92%	合計

古本で日本対がん協会に寄付ができます

読み終えた本やDVDなどを活用しませんか？

charibon by VALLE BOOKS

詳しくは「チャリボン」

<https://www.charibon.jp/partner/JCS/>

お問合せ(株式会社バリューストックス): 0120-826-295  
受付時間: 10:00-21:00(月~土) 10:00-17:00(日)



# 第8回「リリー・オンコロジー・オン・キャンバス ～がんと生きる、わたしの物語。」 絵画×写真×絵手紙コンテスト

最優秀賞に安藤真央さん(絵画部門)、児玉秀俊さん(写真部門)、野城郁郎さん(絵手紙部門)



授賞式で表彰を受けた受賞者たち

7月9日、千代田区丸の内のJPタワーホール&カンファレンスで「第8回リリー・オンコロジー・オン・キャンバス～がんと生きる、わたしの物語。絵画×写真×絵手紙コンテスト」の授賞式が開かれた(主催：イーライリリー株式会社、後援：日本対がん協会、厚生労働省、兵庫県、神戸市、大阪市)。

対象作品は、がんになっても自分らしく生きられる社会の実現を目指し、がんと告知されたときの不安やがんと共に生きていく決意、そしてがんの経験を通して変化した自分の生き方などをエッセイとともに絵画や写真で表現したもの。今回は絵画部門、写真部門、絵手紙部門あわせて112点の応募があり、部門ごとに最優秀賞各1作品、優秀賞各1作品、インターネットによる一般投票賞各1作品が選ばれ、8人の受賞者が表彰された。

絵画部門で最優秀賞となったのは、安藤真央さんの「笑顔の花」。安藤さんは、出張先で、ずっと元気だった母親から「あのね、お母さん、がんかもしれない」と、電話を受け、落ち込んだ。



絵画部門最優秀作品

しかし、母親は手術後に「がんについて勉強して同じようのがんと闘う人たちの力になりたい」と、病気になってもしっかりと前を向いていた。「自分の笑顔が母の笑顔に、その笑顔が、誰かの笑顔につながっていく」。そんな思いから描いたという。

絵画部門の優秀賞は、脇田伸さんの「卒寿の祈り」で、一般投票賞にも選ばれた。

写真部門の最優秀賞は、児玉秀俊さんの「明るい未来に向かって!」。膵臓がんが診断されてから5年目の児玉さんは、「細々ながらまっすぐ前を向いて生きている!という今の自分の状態を写真で表現してみよう」と、長野県の高峰高原へ。そこで遭遇したのが、「虫食いされてボロボロの葉を持つツル性の植物」。貧弱けどまっすぐ上を向いて光芒に向かって伸びていく姿に感動し、「私もまたこの姿にまっすぐ生きろ!と励まされているようでした」という。

写真部門の優秀賞は、波多野清さんの「あさぎまだら」が、一般投票賞は前



写真部門最優秀作品

田美智子さんの「鴨川ピクニック」が受賞した。

絵手紙部門の最優秀賞は、野城郁郎さんの「七転び八起き」が受賞した。野城さんは、2012年のがんの治療が終了し、5年以上再発もなく過ごしていたが、6年目に再発が見つかった。どんよりした気分がしばらく続いたが、妻から言われた「試練を乗り越えられる人に、試練が与えられるんだよ」との言葉が大きな力になった。「6年前、私の気力を支えたのは、『普通の暮らしに戻る』『夢中になれることを取り戻すこと』であった」という。自分を奮い立たせる思いが、スーツ姿のダルマから伝わってくる作品だ。

絵手紙部門の優秀賞は内藤三枝子さんの「ばあちゃん、カツラぼうしがとんじゃうよ」が、一般投票賞は、養田公美さんの「菌型で遺した孫のがんばり」が受賞した。

これまでの受賞作品は各地の病院やイベント会場で巡回展覧され、既に100か所以上の病院で、多くのがん患者さんたちに勇気と希望を与えている。授賞式で挨拶に立った日本イーライリリー執行役員の勝間英仁・オンコロジー事業本部長は、「病気と闘う患者さん・家族の一助になることができないうちの中にも本コンテストもあります。がんになっても強く生きいける、そんな社会の実現に向けて、我々も少しでも貢献できるよう、これからも継続していきたい」と述べた。



絵手紙最優秀作品